

美方郡新温泉町でコガタノゲンゴロウを初記録

泉山真寛

2024年10月に兵庫県美方郡新温泉町でコガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* が初めて確認されたので報告する。なお、希少な昆虫につき、調査地の詳細は明らかにしないことをお断りしておく。10月に2回の調査を同じ場所で行い、計11個体が採集された。

コガタノゲンゴロウは、全国的にも個体数が減少し、環境省のレッドデータカテゴリでは、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている。また、兵庫県内では、絶滅危惧Ⅰ類 (Aランク) に指定されている (兵庫県の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類))。さらに、兵庫県に隣接する鳥取県では、条例により採集禁止となっている。

近年では、一度は兵庫県但馬地域では絶滅したと考えられていたコガタノゲンゴロウの雌成虫1個体が兵庫県豊岡市の溜池で発見された (杉浦 2021)。

美方郡新温泉町は、これまでコガタノゲンゴロウの生息が確認されている鳥取県東部および兵庫県豊岡市に隣接している地域である。コガタノゲンゴロウは飛翔性向が強く、分散距離も数kmと推定されており (國本 2005, 2006), 鳥取県の個体群が隣県に徐々に分布を拡大している可能性もある (大庭・稲谷 2010)。今回の確認によって、本種の分布の詳細や移動能力などの詳細が明らかにできる可能性がある。なお、本調査地では鞘翅目として、ガムシ *Hydrophilus acuminatus*, コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus*, クロゲンゴロウ *Cybister brevis*, ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* も確認された。

○引用文献

兵庫県の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト 2022 (昆虫類)。https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg\_240/leg\_289/2022/2022, (最終閲覧: 2024年11月)。  
 國本洗紀, 2005. コガタノゲンゴロウの生態 (その1)-

越冬場所と繁殖地 -. ゆらぎあ, 23: 1-7.  
 國本洗紀, 2006. コガタノゲンゴロウの生態 (その2)-繁殖地と越冬地間の移動 -. ゆらぎあ, 24: 1-6.  
 大庭伸也・稲谷吉則, 2010. 兵庫県西部と島根県東部におけるコガタノゲンゴロウの記録. きべりはむし, 33 (1): 14-15.  
 杉浦真治, 2021. 兵庫県北部におけるコガタノゲンゴロウの再発見. ホシザキグリーン財団研究報告, 24: 95-96.

(Masahiro IZUMIYAMA 兵庫県養父市)

台湾ヒラアシキバチ (Hymenoptera: Siricidae) を上郡町のトンネル内で採集

大貝秀雄

上郡町にある安室ダム周囲にはキャンプ場が整備されておりダム湖には釣り客も多いが、周辺地域は意外に動植物が豊富で、ダム完成の1991年以後においても蛾類の調査報告 (高島 1997) などがあり、希少な淡水藻類であるチスジノリがみられることでも知られている (瀬戸ほか 1993, 辻ほか 2004)。ダムの周回道路路上にはトンネルが一個所あり、その内部は走光性を有する昆虫を安直に採集できるポイントである。

このトンネル内において筆者はキバチ科の外来種、台湾ヒラアシキバチ *Eriotremex formosanus* (Matsumura, 1912) の♀を2024年8月の7日と14日にそれぞれ1例ずつ採集した。ともにトンネル入口に近い内壁の天井照明に近い部位に静止していたものであった。本種は走光性を有するものであると思われる。また、その近傍にはツバメが巣を造営していたが、それと台湾ヒラアシキバチとの関連は不明である。

本種は台湾産の標本に基づき松村松年が記載したもので、その後、中国雲南省、ラオス、タイ、ベトナム、北アメリカ (移入) での分布が知られるに至り (Shinohara, 2022), もともとアジア南東部に固有の熱帯ないし亜熱帯性のキバチと思われる。国内では1980年に奄美大島で最初に発見され、次いで本州における最初の標本が1988年に岡山県倉敷市から得られた。その後、近年になって山口、兵庫 (三田市)、京都、和歌山、福井、岐阜、愛知、神奈川、東京、千葉、茨城の都府県からあいついで記録されている (内藤ほか, 2020; Shinohara, 2022)。本州における本種の初期の記録は沿岸部に多かったことから、輸入材または流木からの偶発的な発生と想定されたが (内藤ほか, 2020), 今では



図 美方郡新温泉町産コガタノゲンゴロウ。



図1: タイワンヒラアシキバチ♀ (背面).

奄美大島での記録も含め、本種はもともと国内には分布せず、すべて国外からの移入に由来するものであり、本州のいくつかの地点では定着するに至ったと考えられるようになった (Shinohara, 2022). なお同属の別種 *Eriotremex quadricinctus* も兵庫県で採集されているが (Paratype), 他の既知の分布地 (台湾, 与那国島, 石垣島) からは隔離されているため、兵庫の記録は偶産であった可能性が指摘されている (Shinohara, 2022).

1988年倉敷市の標本は *Eriotremex yamasakii* Togashi, 1990 (ニセタイワンヒラアシキバチ) の名で記載されたが、これは後に Shinohara (2022) により本種のシノニムとされ、吉田 (2014) が三田市からニセタイワンヒラアシキバチとして報告した標本も Shinohara (2022) により検討され、本種であることが確認されている。上郡町は *yamasakii* の名で報告された2標本の産地、倉敷市と三田市のほぼ中間に位置するが、今回上郡町で得られた標本には *yamasakii* 的な特徴 (類に紋をもち、腹部第6節に黄帯をもつ、等) は認められなかった。

#### 謝辞

日頃からハバチ・キバチ類に関する御指導をいただき、今回も文献を御提供いただいた国立科学博物館の篠原明彦博士に感謝いたします。

#### ○引用文献

- 内藤親彦・篠原明彦・原秀穂, 2020. 日本産ハバチ・キバチ類図鑑. 北海道大学出版会, 札幌. 530pp.
- 瀬戸良三・右田清治・真殿克磨・熊野茂, 1993. 兵庫県安室川産の淡水産紅藻チスジノリとチスジノリ属2種の日本における分布. 藻類 41(4): 355-357.
- Shinohara, A., 2022. The woodwasp genus *Eriotremex* (Hymenoptera: Siricidae) of Japan. Japanese journal of Systematic Entomology, 28(2): 169-

180.

- 高島昭, 1997. 上郡町で採集した蛾 (1) (兵庫県産蛾類分布資料 6). きべりはむし, 25(1): 31-39.
- 辻光浩・水野雅光・齊藤重人・池田正・眞間修一, 2004. チスジノリがよみがえる川づくり (兵庫県安室川). リバーフロント研究所報告 (15): 17-23.
- 吉田浩史, 2014. 兵庫県産ハバチ・キバチ類の追加記録. きべりはむし, 36(2): 15-25.

(Hideo OGAI 兵庫県上郡町)

#### 洲本市でハネビロトンボを採集

島岡 優

兵庫県洲本市でハネビロトンボを採集したので報告する。

1ex., 兵庫県洲本市三熊山ドライブウェイ, 17. VIII. 2024, 筆者採集・保管 (図)

正午ごろ三熊山ドライブウェイの歩道を歩いていたら、ウスバキトンボの群れの中にまぎれてハネビロトンボがいた。採集した個体は、翅がまだ柔らかかったことから未成熟と考えられる。

最後に、発表を勧めていただいた八木剛氏 (兵庫県立人と自然の博物館) にお礼申し上げます。

(Yu SHIMAOKA NPO 法人こどもとむしの会)



図. 洲本市で採集したハネビロトンボ.